

平成21年度 連絡協力促進事業 教育相談に関する研修会

「子どもたちのハートをつかめ！」

不登校に対する考え方、子どもや保護者への対応の仕方などを、より具体的・実践的に学べる場となりました。不登校の支援は、役割分担が大切であり、参加者相互の交流を深めることで、支援体制のネットワークも広がりました。

1. 事業実施までの経緯

本事業は日本学校教育相談学会愛媛県支部との共催で、今回13回目を迎えた。実施当初は、学校現場において不登校が大きくクローズアップされ始めた時期であり、当時の交流の家職員と教育相談学会とのネットワークを生かし、学校現場で悩んでいる教職員と共に教育相談をどうとらえればよいか、子どもたちとどうかかわっていけばよいかを考える場としてこの事業をスタートした。平成13年度からは、不登校のみならず、社会的問題にもなっている引きこもりの青年にまで対象を広げている。今回も教育相談学会からの紹介をもとに講師を選定し、よりよい研修会になるよう、学会担当者や講師と連絡を取り合い、打合せを重ねた。例年アンケートで要望されている「より学校現場で実践できる内容を」という視点を重視し、現場で生かせる芸術療法と不登校への支援の実際をテーマに本事業を企画した。

2. ねらい

教育相談にかかわる教職員・施設職員等が、不登校の予防、または不登校状態にある児童・生徒、引きこもりがちな青年及びその保護者の理解と対応の仕方について、教育学的・心理学的見地から研修を行う。

3. 主 催 独立行政法人国立青少年教育振興機構 国立大洲青少年交流の家
4. 共 催 日本学校教育相談学会愛媛県支部
5. 後 援 愛媛県教育委員会・大洲市教育委員会
6. 期 日 平成22年1月23日（土）～24日（日）＜1泊2日＞
7. 場 所 国立大洲青少年交流の家
8. 参加人数 教職員、不登校(ひきこもり)対応施設職員、教員を志す学生・社会人等 81名
9. 講 師 佐藤 仁美氏 (放送大学准教授)
伊藤 美奈子氏 (慶応義塾大学教職課程センター教授)

10. 日 程

1月23日（土）

12:30 13:30 14:00

17:30 18:30

20:00 20:45

22:30

受付	開講式	講義・演習（佐藤仁美氏） 「現場で生かせる芸術療法Ⅰ」	夕食	講義・演習（佐藤仁美氏） 「現場で生かせる芸術療法Ⅰ」	入浴	情報交換会 （自由参加）	就寝
----	-----	--------------------------------	----	--------------------------------	----	-----------------	----

1月24日（日）

6:30 7:00

7:10 9:00

11:45 12:00 12:10

起床	朝のつどい	清掃朝食	講演（伊藤美奈子氏） 「不登校-その心もようと支援の実際」	閉講式	解散
----	-------	------	----------------------------------	-----	----

11. 活動内容

1月23日（土）

<開講式>

国立大洲青少年交流の家の新山雄次所長と日本教育相談学会愛媛県支部の中野勇理事長が開会の挨拶を述べ、教育相談に関する2日間の研修会「ハートをつかめ！」がスタートした。



<講義・演習Ⅰ>

1日目は、放送大学准教授である佐藤仁美氏による講義・演習「現場で生かせる芸術療法」が行われた。第一部では、自己紹介（芸術療法との出会い）、絵画療法の実践例（個人・ペア）、子ども理解の手法、芸術療法の基礎知識等、演習を交えながら、終始、和やかな雰囲気の中で講義が進められた。子ども理解の手法についての講義から、不登校支援での役割分担の大切さや子どもの居場所の重要性も再確認できた。



<講義・演習Ⅱ>

夕食の後、演習中心の第二部がスタートした。5～6人組のグループに分かれ、芸術療法の手法であるスクイグルゲーム（なぐりがき）や枠づけ法を体験した。紙やペンを自由に選び思い思いの発想で線を描き、仲間につないでいくという作業を通して、参加者同士の心が自然と開かれ、連帯感が生まれていく過程を体感できた。実際の現場で言語表現の苦手な子どもたちとコミュニケーションを図るための、効果的な手法を多く学ぶことができた。



<情報交換会>

第二部終了後、様々な学校で勤務する教職員が参加し、情報交換会が行われた。普段、職場で抱えている悩みを相談し合ったり、1日目の講義や演習をふりかえったりと、リラックスした雰囲気の中で、充実した情報交換と親睦が図られた。2日目の講師である伊藤美奈子氏も参加し、短い時間ではあったが、直接、不登校支援の実状を伺えるという有意義な情報交換会となった。

1月24日（日）

<講演>

2日目は、慶應義塾大学教職課程センター教授である伊藤美奈子氏による講演「不登校—その心もようと支援の実際」が行われた。不登校の現状や現代の子どもの特徴、不登校の子どもへの校内・校外における多様な支援、子どもの心をキャッチするコミュニケーション、不登校の子どもの思いや願い、親・教師に対する子どもからのメッセージ等、自身の体験を例に具体的に解説していただいた。不登校の子どもへの実際の支援の在り方を、詳しく学ぶことができた。



<閉講式>

国立大洲青少年交流の家の新山雄次所長と日本教育相談学会愛媛県支部の中野勇理事長が閉会の挨拶を述べ、県内外から81人の参加者を集め、盛大に開催された2日間の研修会が幕を閉じた。講義や演習、講演を通して、今までのかかわり方が間違いでないことを再確認し、自信を深めた参加者や、新しい知識や手法を学ぶことができた参加者の表情からは、充実感や満足感が漂っていた。



12. 参加者の声

参加者の事後アンケート結果

満足 77% やや満足 23% やや不満 0% 不満 0%

- 他県から参加させていただきました。初めてお目にかかった先生方も親切にいただき、大変うれしく思いました。教育技法としての芸術療法も不登校生への理解も具体的かつ有効なもので、できる限り、職場や関係機関の中で広めていきたいと思えます。
- 学校での不登校対応（支援）について、役割のシェアリング（分担）の大切さがよく分かった。そのためのチーム支援体制づくりが早急の課題であると思った。
- 学校現場で実際に使えるような芸術療法を実際に体験できたり、具体的な事例を通しての講義をきくことができたりして、とても有意義な研修会だった。
- 3回目の参加になりますが、毎年のように新しい発見や自分をふりかえることのできる講演や演習があり勉強になります。ただ、この演習を現場にどう生かし活用するかが課題です。

13. 成 果

例年、県内の各種学校や不登校（引きこもり）対応施設へ開催要項とチラシを配布しているが、今回は、事前案内を昨年度の参加者に先行配布して声かけをお願いしたり、締切間近に、近隣の小中学校へ再度、チラシを配布したりしたことで、幅広い職種・年齢層の参加者を集めて研修会を開催できた。毎年アンケートで要望されている「より学校現場で実践できる内容を」という視点を重視して講師を選定し、座学だけでなく、演習の時間もしっかりと確保したことで、より具体的で実践的な研修ができた。講義や演習、講演を通して、参加者自身が今までのかかわり方が間違いでないことを再確認し、自信を深め、新しい知識や手法を学ぶことができたことが何よりの成果である。また、情報交換会には2日目の講師も参加し、参加者相互のネットワークを広げることができた。

14. 課 題

アンケートには「有意義な研修であり、継続してほしい」という意見が多い。しかし、参加者が固定されつつあり、7割が日帰り参加という現状である。研修プログラムが、例年ほぼ同じ流れになっているため、事業日数を含め内容の検討が必要である。研修会でつながった参加者のネットワークを強化し、不登校（引きこもり）への支援体制や校内に持ち帰ってからの研修体制を確立させることも今後の課題である。